

2021年度事業報告

1. 基本方針

日本包装学会の目的は、「包装にかかわる各種材料、加工、機械、システム、製品、検査、流通、デザイン、心理、環境、社会等の科学及び技術の進展をはかり、もって学術文化の向上と産業の発展に寄与すること」であると会則に規定されており、その目的を達成するために、①研究発表会、研究会、講演会、講習会及び見学会等の開催、②会誌その他本会の目的に関係する資料の発行、③関連機関・団体との連絡及び協力、④その他本会の目的達成に必要な事業を行ってきています。

2021年度は、これまでの活動実績を踏まえ、「社会提言を含む情報発信機能強化」「産官学共同プロジェクト促進」「女性や学生を含む若手が主役である学会体制の構築」「国際化の推進」の方針が立てられ、2020年度初めから続くコロナ禍のなかで引き続き「With-Coronaにおける学会活動のあり方」について対応せざるを得なかった1年間でした。特に年次大会は前年度に続き会場現地開催が見送られリモート形式となりましたが、発表内容がオンデマンドにより視聴できるなどのメリットもあって、懸念したよりも活発な質疑が行われました。また、シンポジウムや研究会および各種委員会活動についてもリモート開催が中心となりましたが、効率的な学会運営の新たなノウハウが積み上がってきていることを実感できました。さらに、学会創立30周年記念事業としての学会誌特集号と「包装関連研究論文執筆のための用語集」が発刊されました。

2. 学会運営の経過

2-1. 通常総会

2021年8月5日、次の要領で開催した。

- メーリングリストに基づく招集
- 学会ホームページ掲載の議案書ダウンロード
- パスワード付き回答フォームを用いたWeb議決
- 議決件数 381（回答99、委任282）、会員数：400

2-2. 理事会

2021年度は2回の開催となった。

- 第91回：2021年6月 メール開催
- 第92回：2022年2月 web開催

2-3. 会長補佐会議

2021年度は3回の開催となった。

- 第100回：2021年5月 web開催
- 第101回：2021年10月 web開催

- 第102回：2022年1月 メール開催

3. 各委員会の活動

3-1. 編集委員会

(1) 以下の学会誌を発行し、特集を掲載した。

- Vol. 30 No. 2 プラスチックの環境問題とイノベーションシフト
- Vol. 30 No. 3 輸送振動試験に関する最近の話題
- Vol. 30 No. 4 30周年記念号
- Vol. 30 No. 5 包装板紙材の加工技術の最新動向と取り組み
- Vol. 30 No. 6 プラスチック包装材に施される水性印刷の現状
- Vol. 31 No. 1 セロハンを見直す

(2) 以下の査読を行い、学会誌に掲載した。

- 論文：4報、技術報告：1報、ノート1報

(3) 以下の通り編集委員会を6回開催した（第183回～第188回）。

- 第183回：オンライン会議 2021年5月12日
- 第184回：オンライン会議 2021年7月14日
- 第185回：オンライン会議 2021年9月14日
- 第186回：オンライン会議 2021年11月9日
- 第187回：オンライン会議 2022年1月12日
- 第188回：オンライン会議 2022年3月11日

3-2. 企画委員会

- シンポジウムを2回開催した（第83回および第84回）。第84回では、初のオンライン開催を実現したとともに参加者へのアンケート調査も実施した。一方、2022年2月にもう一回開催することも想定し企画を進めていたが、2021年末から新型コロナウイルスの蔓延が再び拡大傾向となり、担当委員内での調整も困難となったことから中止し、案内文をホームページに掲載した（2022年1月13日付）。
- シンポジウムの企画や分担体制等の確認のために、企画委員会を3回、オンライン形式で開催した（第135回：2021年5月17日、第136回：2021年8月26日、第137回：2021年10月27日、第138回：2022年2月10日（2022年年度向け））。

3-3. 研究委員会

(1) バリア材料研究会

第25回バリア材料研究会（オンラインに切り替え）の開催準備。

(2) 輸送包装研究会

輸送包装ディスカッション2021を開催完了。

- 日時：2021/9/27、テーマ：輸送包装設計のための振動試験、参加者：26名、 場所：オンライン

(3) 包装とIoT研究会

具体的活動のための準備。

(4) 若手の会

日本包装学会設立30周年記念事業として「包装関連研究 論文執筆のための用語集」を発刊完了。

3-4. 大会運営委員会

COVID-19感染症が収束せず不透明な状況が続く中、日本包装学会第30回年次大会をオンライン開催とした。その後も、感染症の収束が認められず、第31回年次大会も、オンライン開催とすることに決定し、様々な課題を一つずつ解決しながら、準備を進めている。

- 第234回 2021年4月6日 web会議審議
- 第235回 2021年5月11日 web会議審議
- 第236回 2021年6月8日 web会議審議
- 第30回年次大会 オンライン開催
参加登録者数：142名
発表数；37件（口頭22件、ポスター15件）
- 第237回 2021年10月12日 web会議審議
(以降 第31回年次大会準備)
- 第238回 2021年11月10日 web会議審議
- 第239回 2021年12月7日 web会議審議
- 第240回 2022年1月11日 web会議審議
- 第241回 2022年2月15日 web会議審議
- 第242回 2022年3月8日 web会議審議

3-5. 広報委員会

(1) Web関連

学会主催催事（シンポジウム・年次大会・研究会）の開催案内と参加受付をwebページにて行い、会員に告知メールを発信した。以下の事項についてwebページの公開、もしくは内容の改訂を実施した。

- 随時：協賛、後援している催事
- 学会誌の発行時：最新号の目次

- 年次大会終了時：維持会員リスト、過去の受賞者リスト、事業報告、事業計画
- 年末：学会表彰授賞者募集案内
- 年度の切り替わり時期：学会誌掲載後1年以上経過した論文

(2) 東京パック出展対応

東京ビックサイトにてTOKYO PACK2022が2022年10月12日～14日に開催される。PR_PRESS ブースの1小間出展申込み完了した。

(3) 書籍 基礎講座の増刷

基礎講座の「(10) 包装材料の吸脱着の科学」300冊増刷。210000 円(税抜き)

3-6. 国際交流委員会

I P Sの開催可能性について議論を進めた。2022年においては海外から講師を招聘し開催することは困難であり開催を見送ることとした。オンラインの開催可能性についても検討したが対面で行うことでの交流の効果は大きいと考えている。

3-7. 学会賞等選考委員会

COVID-19感染症防止のため、2022年3月31日にオンラインで選考委員会を開催、慎重に審議を行った結果、次の通り決定した。

(1) 日本包装学会賞 (推薦なし)

(2) 日本包装学会奨励賞 (推薦なし)

(3) 日本包装学会論文賞 (対象論文4)

- 永澤 茂、石井 航平、小林 至 (長岡技術大学)
- 論文タイトル: Effects Processing Conditions on Tearing Characteristics of Zipper Lines of E-Flute Corrugated Paperboard (Dependency of Length of Connecting Portions, Width of Zipper Band, Phase Shift of Dashed Lines and Tearing Velocity on Tearing Characteristics)

(4) 日本包装学会功労賞

- 天野 勉、中込 隆、古田 拓

3-8. 財務委員会

- 2021年度決算及び2022年度予算の作成
- 毎月の財務状況の確認

3-9. 総務委員会

総会、理事会、会長補佐会議の事務局として学会活動を運営した（詳細 学会運営の経過参照）。

以上のとおり、報告致します。

斎藤 勝彦	(会長)
中嶋 隆勝	(副会長)
田中 幹雄	(副会長)
志水 基修	(編集委員長)
北澤 裕明	(企画委員長)
川口 和晃	(研究委員長)
佐藤 正史	(大会運営委員長)
宮田 剣	(国際交流委員長)
竹村 彰夫	(学会賞等選考委員長)
東山 哲	(財務委員長)
高山 崇	(広報委員長)
牧 伸行	(総務委員長)
野田 治郎	(監事)
坂巻 千尋	(監事)